



国際ロータリー
第2620地区

御殿場 ロータリー クラブ 週報



御殿場
ロータリークラブ
モバイルサイト

<https://www.gotemba-rc.jp/>

会長挨拶



豊山 篤

本日は日本野鳥の会の勝又立雄先生をお迎えして野鳥の話を伺いました。以前の菅先生から引き継いでいただき今年で4年目となります。今回は悪天候のため屋外での探鳥会はできませんでしたが、屋内での卓話のみでしたが、毎年楽しいお話を聞かせていただいております。

我が家の戸袋にも毎年鳥が巣を作り上げ、毎年雛がかえり巣立っていきます。何という名前の鳥なのかも知りませんが、お陰様で我が家の周りには賑やかな鳥の鳴き声が絶えません。ですが、そろそろ近所のお宅には少し賑やかになりすぎているかもしれません。

花鳥風月という言葉があります。

その美学は、単に自然の景色を並べただけでなく、「自然の美しい情景を愛(め)で、詩歌や絵画などを嗜(たしな)む風流な風情」そのものを指す言葉だそうです。

花(か)：春の象徴。咲き誇る生命の美しさと、散りゆく儚さ。
鳥(ちょう)：夏の象徴。美しいさえずりで自然の躍動感を伝える命。

風(ふう)：秋の象徴。肌で感じる季節の移ろいや、目に見えない風情。

第2825回 例会プログラム

- 例会場 / 東山荘記念館
- 開会点鐘 / 12:30
- ロータリーソング / 奉仕の理想
- 内容 / 御殿場市都市計画課 担当職員様 卓話

会員慶事

- 結婚記念日 / 若林洋平君 雅美様 ご夫妻
- 皆出席 / 5月23日 斎藤 衛君 (ロータリー歴24年)
5月23日 澁谷 一君 (ロータリー歴24年)
5月23日 山崎伊久雄君 (ロータリー歴24年)
5月26日 勝又博文君 (ロータリー歴32年)

5/21の出席報告

会員数	出席計算に用いた会員数	出席者数	暫定出席率	前々回の確定出席率
51名	43名	33名	76.74%	100%

欠席者 (10名)	出席者	出席者	出席者	出席者
林 泰博君	池谷正徳君	神谷高義君	勝又博文君	勝又博文君
勝又安彦君	根上眞一君	長田 崇君	齊藤礼志君	齊藤礼志君
豊山徹也君	山内 剛君			

*やむを得ず欠席される方は、午前9時50分までにご連絡下さい。

月(げつ)：冬の象徴(あるいは夜の静寂)。夜空を冴え冴えと照らす神秘的な光。

元々は中国の詩に由来する言葉だそうです、それが日本では独自の「四季を愛でる文化」と深く結びつき、茶道、華道、俳句といったあらゆる芸術の根底にある美意識となったそうです。

今年も私の診療所にバラが咲きました。妻がコツコツと育ててきたバラで、ここ何年かは患者さんやご近所さんからもお褒めを頂くようになり、この2、3年は『今年もバラが満開の季節になったね。』と言われるような風物詩となってきました。

私自身は取り立てて興味があるわけではありませんが、やはり綺麗なものは綺麗と感じるものであり、年を重ねて来ているせいか、ここ最近は花を眺めることもよいものだなあ、と感じてきております。少しは妻の手伝いで、バラのお手入れでもしようかと考えてみてもよいかなと思うようになってきた気がします。(まだそれほど前向きではない)

御殿場ロータリークラブの例会の中でも、この早朝に集まった探鳥例会は、自分にとってはとても好きな例会です。

来年度以降も立雄先生には引き続きよろしくお願ひできればと思います。



会長挨拶はこちら



司会
田代明人君



出席報告
高橋隆造君



ソングリーダー
梶 喜朗君



会員誕生日
長谷川雅也君

4/23の メーキャップ

4月27日
北海道Eクラブ
芹澤隆博君

5月13日
ワールド大阪
神谷高義君



よいことのために
手を取りあおう

次回
6月4日の
例会

★名鉄菜館 ★12:30
★クラブ創立記念日に因んで
神谷高義君

早朝例会 歌に詠まれ、歌に歌われた鳥たち

日本野鳥の会東富士 代表

勝又立雄様

童謡、歌謡曲、さらには短歌俳句の時代から、鳥が出てくる歌は数えきれないほどあります。人々が感性のままに歌を詠むとき、口ずさむとき、そこに出てくる鳥たちのなんと多いことが。

【短歌に詠まれた鳥たち】

万葉集は日本最古の歌集で、驚くほど多くの野鳥が登場します。ここには庶民に至るまでいろいろな階層身分の人が身近な鳥を詠んでいます。まさに野鳥は人々に平等に親しまれていたことが分かります。

●「春の野に 霞たなびき うら悲し この夕影に うぐひす 鳴くも」

憂いに暮れる日もウグイスが慰めてくれます。

●「霍公鳥(ホトトギス) 来鳴き 響(とよ)もす 卯の花の 共にや来しと問はましものを」

万葉集にはホトトギスを詠んだ短歌が153首もあるそうです。

古今和歌集は貴族・僧などの歌が残っていますが、やはり多くの鳥が出てきます。

●「うぐひすの 谷より出ずる 声なくば 春来ることを 誰か知らまし」

ウグイスの初鳴きで春の到来を知る。まさに春告げ鳥です。

【人気のホトトギス 戦国三傑が詠ったと言われるけど】

みなさんも歴史の時間に一度は聞いたことがある句です。

●「鳴かぬなら 殺してしまえ ホトトギス」 (織田信長)

●「鳴かぬなら 鳴かしてみせよう ホトトギス」 (豊臣秀吉)

●「鳴かぬなら 鳴くまで待とう ホトトギス」 (徳川家康)

これは後世の人がこの3人の気性を対比させるために作ったと言われています。こんなところにもホトトギスが使われるのですね。

【俳句ではどうでしょう?】

俳句の時代になり、歌はますます庶民のものになります。



●「雀の子 そのけそのけ お馬が通る」

(小林一茶)

●「我と来て 遊べや 親のない 雀」

(小林一茶)

一茶はスズメや虫などの身近な小動物への同情愛情あふれる句を残しています。現代の俳句でも

●「うらかや 木魚に合はず 鳥のこゑ」

(新田佐代子)

鳥が人々の日常の音に反応することは確かにあります。わたしは登山道の森で篠笛に呼応する鳥の声を聞いたことがあります。

【うたといえば、やはりうたう歌】

童謡と言えば、「はと」「かもめの水兵さん」「とんび」「かっこう」「七つの子(からす)」などいくらでもあります。

【昭和歌謡で考えてみましょう】

●三橋美智也さんの「夕焼けとんび」

♪とんびがぐるりと輪を描いた♪

みなさんはトビの特徴がわかりますか? トビは尾羽がやや短く、形が三味線のぼちのような三角形です。

●春日八郎さんの「別れの一本杉」

♪山の掛巢も啼いていた♪

みなさんはカケスの鳴き声を聞いたことがありますか? カケスは「ジェー」または「ギェー」といった、あまり哀愁を感じない声です。

●渡辺真知子さんの「かもめが翔んだ日」

♪その時一羽の かもめが翔んだ♪

みなさんはカモメとウミネコの姿の違いがわかりますか?

【まとめ】

短歌でも、俳句でも、童謡でも、歌謡曲でも、演歌でも、それは大勢の人のもので、みな何度も読まれる、繰り返し歌われる、いわば人々の共通財産です。そこに何回も登場する鳥たち。いかに鳥たちが人の生活とともにあったかがよくわかります。

2026年	月	日	時間	会場	内容	担当者及び卓話者
6月 御殿場RC 例会 プログラム	6/4	(木) (2826回)	12:30	名鉄菜館	クラブ創立記念日に因んで	神谷高義君
	6/11	(木) (2827回)	18:00	ホテルニューアカオ	一泊例会	クラブ運営委員会
	6/18	(木)		特別休会		
	6/25	(木) (2828回)	12:30	東山荘記念館	一年を顧みて	会長・幹事・SAA